



第1章 研究の概要



新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる ～「生涯学習力」を高める授業づくりを通して～

はじめに

本校では、平成 29 年度から 2 か年は「児童生徒主体の個別の教育支援計画『私の応援計画』を活用した教育課程の編成」を主題とした研究を行った。本人・保護者が主体という意味を込め、「私の応援計画」という名称に変更し、本人と教師との対話を通して、自らの夢や思いを描き、実現に向けて目標を可視化する取組を行った。この研究を通じて、児童生徒が学びの主体であることを自覚して将来の夢をもち、今何を学びたいかについて自ら語れるようになってきた。このことは成果の一つであり、「私の応援計画」を活用した取組によって、児童生徒一人一人が生涯にわたって成長し続けるための力を育む素地となったものと捉えた。

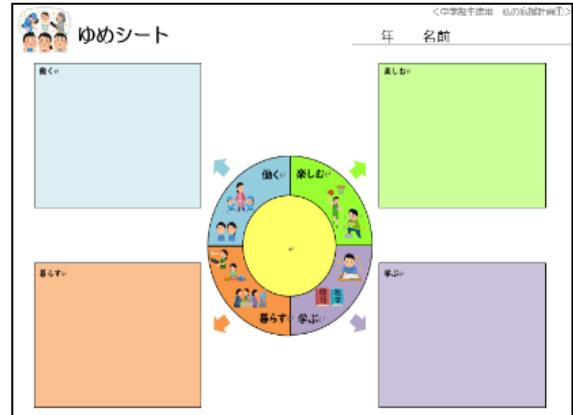


図 1 私の応援計画・中学部様式

1 研究の経緯

(1) 「生涯学習力」を高める教育課程の編成

平成 31 年度から 2 か年は「児童生徒の『生涯学習力』を高める教育課程の編成」を主題として取り組んだ。ここでは、「生涯学習力」を「主体的にヒト、モノ、コトに関わり、生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力」と定義するとともに、生涯学習を進める上で大切な要素の選定や「生涯学習力」を高めるための教育課程の見直しを進めた。その結果、教育課程の編成では、生涯学習の観点から「学びの積み重ね」や「地域と持続可能なネットワークの構築」、「児童生徒から将来の夢や学びたいことを引き出す」などの大切さについて確認することができた。



図 2 「生涯学習力」を高める
教育課程編成のイメージ

(2) 「生涯学習力」を高めるための授業づくりの基盤整備

令和 3 年度は、児童生徒の「生涯学習力」を高めるための基盤整備について、次の 3 つのワーキンググループ (WG) を立ち上げ、研究に取り組んだ。

- ・「授業づくりWG」…授業実践をしながら「生涯学習力」を高めるために必要な要素について検討した。
- ・「オリジナルマップ活用推進WG」…生徒が学習した場所や内容をタブレット端末上の地図に落とし込み、オリジナルマップを作成した。マップを活用した学習で自分が頼れる場所、自分を充実させる (ヒト・コト・モノ) に気付いたり、分かったりすることにつながった。
- ・「地域とつながるWG」…学校と地域との間で「ゆるやかなネットワーク」を構築し、どのように地域に働き掛けていけばよいか検討した。学校と関わりのある地域の方をお招きして授業の様子を参観してもらったり、意見交換会を開催したりした。

これらの成果として、学部ごとに「生涯学習力」を高めるための授業づくりの大切な要素を考えることができた。また、生涯学習の視点から授業で大切にしていることを導き出し、「生涯学習力」を意識し目標を明確に設定し、児童生徒の「生涯学習力」の変容が見られた。また、全校縦割りグルー

ブで取り組んだことで、児童生徒の将来を見通しながら学習内容を検討することができた。

以上の成果を基に、令和4年度の研究では、児童生徒がこれからの変化の激しい時代の中でも生涯にわたって学び続ける力を身に付けてほしいと願い、「生涯学習力」を高めるための授業実践に焦点を当てて取り組むこととした。

2 令和4年度の実践

(1) 研究方法及び内容について

令和4年度は次に示す3つの柱で研究に取り組むこととした。

- ① 児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿を明確にした授業実践
 - ・「わかはとモデル」の作成と活用
- ② 学部間のつながりを考慮した単元構想や指導内容の検討
 - ・「つながりミーティング」の実施
- ③ 児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿や変容の共有
 - ・単元振り返りシートの活用、エピソード記録の共有

(2) 研究の実践

① 児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿を明確にした授業実践

令和4年度は、学校の教育活動全体を通して児童生徒の「生涯学習力」を高めるための要素を検討し、「わかはとモデル」としてまとめた(図3)。この「わかはとモデル」は授業づくりのポイントとして活用するものであり、児童生徒の「生涯学習力」を高めるために必要かどうか授業づくりを通して検証するものである。

これまで、教員は高等部卒業が学校教育のゴールと捉えて指導・支援をしていた。しかし、「生涯学習力」を高めるという視点で考えると、児童生徒一人一人の生涯にわたって学びに向かう意欲や態度を育て、生徒の卒業後、社会に出たときを見据えた指導・支援をどのようにしていくかが重要であると考え。生徒にとって、学校は長い人生の通過点であり、卒業後も様々な場や地域の人たちとのつながりの中で成長していくものと考え。ところが実際の高等部の進路指導では、一般就労か福祉的就労かという二者択一で、卒業後の進学や地域での学びについての選択肢は少ないと考える。学び続けたいと思う生徒がいたとしても、卒業後はどこで学べるのか分からない、どうしたらいいか分からない人が多いことが現状である。このような状況を脱却し、卒業後も仕事をしたり生活をしたりしながら生涯にわたって地域で仲間と共に学びを楽しみ、豊かな人生を送ることができるよう、学校在学中にできることを継続的に続けていくことが求められていると考える。

本校では「生涯学習力を高める授業づくり」の授業実践の研究にあたり、学び続ける児童生徒を育て、卒業後の将来の視点を踏まえた「生涯学習力」を高める要素「わかはとモデル」を作成した。わかはとモデルの視点は以下の通りである。

【人と関わる】仲間と一緒に、人との関わりを楽しむ、学級外や地域の相手と関わる、人とのつながりを広げていくこと

【情報を集める】見る、聞いてみる、調べてみる、経験を生かそうとすること

【試す】やってみる、試してみる、失敗しても挑戦すること

【自分を知る】好きなことを知る、自分を知る、なりたい自分を知ること

これらの4つの要素の基盤として【夢中】【好奇心】の2つの視点を加えた。様々なことに興味・関心をもつとともに、ヒト・モノ・コトに夢中になったり、好奇心をもったりすることは「生涯学習力」を高める基盤となるものと捉えた。

ブで取り組んだことで、児童生徒の将来を見通しながら学習内容を検討することができた。

以上の成果を基に、令和4年度の研究では、児童生徒がこれからの変化の激しい時代の中でも生涯にわたって学び続ける力を身に付けてほしいと願い、「生涯学習力」を高めるための授業実践に焦点を当てて取り組むこととした。

2 令和4年度の実践

(1) 研究方法及び内容について

令和4年度は次に示す3つの柱で研究に取り組むこととした。

- ① 児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿を明確にした授業実践
 - ・「わかはとモデル」の作成と活用
- ② 学部間のつながりを考慮した単元構想や指導内容の検討
 - ・「つながりミーティング」の実施
- ③ 児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿や変容の共有
 - ・単元振り返りシートを活用、エピソード記録の共有

(2) 研究の実践

① 児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿を明確にした授業実践

令和4年度は、学校の教育活動全体を通して児童生徒の「生涯学習力」を高めるための要素を検討し、「わかはとモデル」としてまとめた。この「わかはとモデル」は授業づくりのポイントとして活用するものであり、児童生徒の「生涯学習力」(図3)を高めるために必要かどうか授業づくりを通して検証するものである。

これまで、教員は高等部卒業が学校教育のゴールと捉えて指導・支援をしていた。しかし、「生涯学習力」を高めるという視点で考えると、児童生徒一人一人の生涯にわたって学びに向かう意欲や態度を育て、生徒の卒業後、社会に出たときを見据えた指導・支援をどのようにしていくかが重要であると考え。生徒にとって、学校は長い人生の通過点であり、卒業後も様々な場や地域の人たちとのつながりの中で成長していくものと考え。ところが実際の高等部の進路指導では、一般就労か福祉的就労かという二者択一で、卒業後の進学や地域での学びについての選択肢は少ないと考える。学び続けたいと思う生徒がいたとしても、卒業後はどこで学べるのか分からない、どうしたらいいか分からない人が多いことが現状である。このような状況を脱却し、卒業後も仕事をしたり生活をしたりしながら生涯にわたって地域で仲間と共に学びを楽しみ、豊かな人生を送ることができるよう、学校在学中にできることを継続的に続けていくことが求められていると考える。

本校では「生涯学習力を高める授業づくり」の授業実践の研究にあたり、学び続ける児童生徒を育て、卒業後の将来の視点を踏まえた「生涯学習力」を高める要素「わかはとモデル」を作成した。わかはとモデルの視点は以下の通りである。

【人と関わる】仲間と一緒に、人との関わりを楽しむ、学級外や地域の相手と関わる、人とのつながりを広げていくこと

【情報を集める】見る、聞いてみる、調べてみる、経験を生かそうとすること

【試す】やってみる、試してみる、失敗しても挑戦すること

【自分を知る】好きなことを知る、自分を知る、なりたい自分を知ること

これらの4つの要素の基盤として【夢中】【好奇心】の2つの視点を加えた。様々なことに興味・関心をもつとともに、ヒト・モノ・コトに夢中になったり、好奇心をもったりすることは「生涯学習力」を高める基盤となるものと捉えた。

視点	小学部	中学部	高等部
人と関わる	なかまといっしょに	人とつながりをつくろう	人とのつながりを広げよう
情報を集める	見てみよう・聞いてみよう	見て聞いて調べよう	経験を生かそう
試す	やってみよう	試してみよう	挑戦し続けよう
自分を知る	好きなことを知ろう	いろいろな自分を知ろう	なりたい自分を知ろう

様々なことに興味・関心をもつことが大事であり、「生涯学習力」を高めるための基盤となる【夢中】【好奇心】

図3 【わかはとモデル】～「生涯学習力」を高める要素～

② 学部間をつながりを考慮した単元構想や指導内容の検討

授業づくりを充実させるためには「児童生徒の生涯学習力が高まる姿」を教師が具体的に思い描き、どのような手立て、単元構想、「生涯学習力」を高める要素を授業の中で設定するかなどが重要となる。そこで、学部の枠を越えた全校縦割りグループで様々な意見、アイデアを出し合う単元検討会（つながりミーティング）を実施した。その中で、「わかはとモデル」の要素の

「つながりミーティング」の実施

「生涯学習力」が高まる姿の構想
学部の枠を越えた全校縦割りグループ
具体的なアイデアを授業に生かす



単元構想シート

子どもの思い・願い
(応援計画と自立活動の視点から)

グループ全体で育みたい姿と
関連する要素

単元名・単元目標

指導について関連する要素
(わかはとモデルより)

単元計画

学部間をつながりや、授業の中での具体的なアイデアを出し合い、他学部の視点を授業づくりに生かした。（学部ごとの単元構想シートについては、各学部の研究の実際を参照）

③ 児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿や変容の共有

児童生徒の変容についてもつながりミーティングの中で進めた。「わかはとモデル」に沿って、児童生徒の変容や成長が見られたこと、対象授業計画、児童生徒の姿、教師の見取りなどの意見を出し合い、変容について考察した。なぜ「生涯学習力」が高まってきたのかを全校職員で共有をする貴重な機会となった。

このように、縦割りで話し合うことで、より「わかはとモデル」の学部間をつながりを持ち、授業に生かした。

どうして、児童生徒の「生涯学習力」が高まってきたのか？



【つながりミーティングで話し合われた内容】

人と関わる	安心感
情報を集める	情報収集 + 体験
試す	同じ場での活動
自分を知る	人から情報を得る
	安心してできる環境で トライ&エラーを 繰り返し成功体験
	発達の段階に 応じた 自己評価